

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	2021年7月27日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） ・東京都港区台場二丁目3番3号 ・京都府長岡京市調子三丁目1番1号	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） サントリービール株式会社 代表取締役社長 西田 英一郎 サントリービール株式会社 京都ビール工場 代理人 工場長 小銀 明

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001
適 用 範 囲	サントリービール株式会社 京都ビール工場
導 入 年 月 日	2001年 8月29日
認 証 番 号	EMS 510961
基 本 方 針	<p>サントリーグループは、環境経営を事業活動の基軸にし、バリューチェーン全体を視野に入れて、生命の輝きに満ちた持続可能な社会を次の世代に引き渡すことを約束します。</p> <p>1. 水のサステナビリティの追求 「水と生きる」をコーポレートメッセージに掲げる企業として、事業活動において最も重要な資源である水を大切に取り扱い、自然界における水の健全な循環に貢献します。</p> <p>2. 生物多様性保全への取り組み 水や農作物に依存する企業として、その価値の源泉である生物多様性を将来にわたって保全することに努めます。</p> <p>3. イノベティブな3Rによる資源の有効活用 循環型社会の実現に向けて、不断の技術革新により、原材料・エネルギーなどの3R (reduce ,reuse, recycle) を一層推進し、持続可能なビジネスの構築に努めます。</p> <p>4. 全員参加による低炭素企業への挑戦 すべての職場において、気候変動の要因である温暖化ガス排出量の削減に努めます。</p> <p>5. 社会とのコミュニケーション 豊かな地球環境を次世代に継承するため、社会との対話に基づいた取り組みを行うとともに、積極的な情報開示に努めます。</p>
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<p>「環境目標2030」</p> <p>1. 水 ・最新の節水技術を活用し、自社工場での水使用をグローバルで15%削減^{※1} ・水ストレスの高い地域を中心に、半数以上の自社工場で水源涵養活動を実施 ・水負荷の高い主要原料について、サプライヤーと協働で持続可能な水使用を追求 ・水に関する啓発プログラムに加えて、安全な水の提供にも取り組み、合わせて100万人以上に展開</p> <p>2. 温室効果ガス（GHG） ・自社拠点でのGHG排出量を50%削減^{※2} ・バリューチェーン全体におけるGHG排出量を30%削減^{※2}</p>
目標を達成するための取組の内容	<p>・省水活動では、各工程での洗浄条件の見直し、使用した水のリユース、リサイクルを実施する ・省エネ活動では、各工程での昇温条件の見直し、排熱回収、省エネ機器の導入を実施する</p>
目標を達成するための取組の進捗状況	<p>・各部の改善活動の進捗確認をエネルギー分科会にて実施している。 【主な活動実績】 ・洗浄条件の見直し ・工程使用水のリユース ・排熱回収の実施</p>
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<p>・2020年度においては、エネルギー原単位はコロナ禍による生産量減、削減メリット減により目標未達となった。水原単位については、削減が順調に進み、目標達成となった。次年度以降はコロナ禍による生産数量を反映した目標設定を実施する。</p>

事業活動に係る法令の遵守の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制遵守カレンダーを作成し、毎月、遵守事項の予実確認を実施している
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年（1回/年以上）の環境マネジメントシステムレビューの中で、環境目的・目標の達成状況、監査実績、システムの運用状況等について確認し、システムの見直しの必要性について論議している。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。